



毎週金曜日発行

Abao 東大阪市議 中西のぶひろの

# 週刊なのタイムス

～東大阪の市政や地域情報をお伝えする～

第48号 令和4年12月16日発行

発行：東大阪市議会議員 中西のぶひろ  
住所：東大阪市瓢箪山町2-14  
連絡先：(TEL)072-982-5127 (FAX)072-985-6972  
携帯：090-8164-5857  
メール：nakanishi.jimusho@gmail.com  
ホームページ：https://www.nanotimes.net/

## ■救急出動要請と電話相談（#7117）

### ★緊急だと思ったら、迷わず119番通報を！

年末年始になると、医療機関がお休みになるところが多く、またそんな時に限っていろいろなトラブルが発生するものです。急なケガや病気、家族の様子が普段と違う・・・など、とても困ってしまいます。そんな時に市民の頼りになるのが、救急車ですね。東大阪市消防局でも、緊急だと思ったら迷わず119番通報を呼びかけています。東大阪市では、119番通報して救急車が現場に到着するまでに平均8分（令和2年統計）ということで、全国平均より1分ほど早く到着してくれます。これは心強いですね。

### ★こんな時は、#7119に相談しよう！

この症状で救急車を呼んだ方がいいのかどうか、迷うときもよくあります。また救急車を呼びたいけれど、大きなサイレン音を鳴らして出動されてもたいそうだし、どうしたものか思案するときもあるでしょう。そんな時に、**#7119で相談できる**のをご存知でしたか。

#7119に寄せられた相談は、医師、看護師、トレーニングを受けた相談員等が電話口で症状などを聞き取り、「緊急性のある症状か」や「すぐに病院を受診する必要性があるか」等を判断します。相談内容から緊急性が高いと判断された場合は、迅速な救急出動につなぎ、緊急性が高くないと判断された場合は、受診可能な医療機関や受診のタイミングについてアドバイスをしてくれます。これはぜひ知っておきたいですね。

## ■ごみの話しはおもしろい！

生活している以上、ごみは必ず出ます。驚くべきことですが、ほんの数十年前までごみは埋められるか、山間部に捨てられていたのです。しかし大量生産・大量消費の時代になり、またプラスチックの出現によりごみ量が飛躍的に増え、ごみを捨てていたら、地球はごみだらけになってしまいます。私たちの住環境、ひいては地球の環境を守り、持続可能な循環型社会をつくって行くためにごみ問題を何とかしなければいけません。

### ★ごみ問題の究極の目標は、燃やす量を減らして残渣（ざんさ）を減らすこと！

ごみを燃やすようになって、衛生的になり伝染病などの病気も減り、住環境は格段に整備されましたが、燃やすとどうしても残渣（残りかす）が残るのです。燃やす量の16%も出るので、これらの最終処分地をどうするかが大問題なんです。どうしているかというと、大阪湾に残渣を運んで埋立てて人口島をつくって、我々の住むところの住環境を守り島も活用しようという一石二鳥を狙っています（大阪湾フェニックス計画）。

病院へ行く？  
救急車を呼ぶ？ 迷ったら...

#7119

### ■家庭ごみ



しかしこのままで推移すると、尼崎沖処分場・泉大津沖処分場・神戸沖処分場に次ぐ4つ目の島である大阪沖処分場も10年後にはいっぱいになり、新たな処分地をつくるのは莫大な費用と環境への影響が大きくその後の計画はまだできていません。最終処分地がないということはたいへんなことで、とにかくごみの総量を減らして燃やすごみを減らし、残渣を少しでも減らしてフェニックスの延命をしなければならないのです。



### ★自分たちができることを、やりきろう

私たち市民は、自分たちのできることをやらなければなりません。ごみを出来るだけ出さない（リデュース）、使えるものはできるだけ再利用する（リユース）、資源に再活用できるものはできるだけ分別する（リサイクル）の「3R」を徹底してほしい。ごみ問題は、行政と市民が協働してできる分野であり、市民の皆さんのほんの少しの努力と気づかいで大きな成果が出やすいといえ、面白い分野と言えますね。そのような努力のおかげで、ごみの総量は減っています。東大阪市で搬入量が一番多かった平成12年と比べて20年間で約3割もごみ量が減っています。すごいことです。

東大阪市と大東市のごみは、水走にある東大阪都市清掃施設組合に搬入して焼却していますが、5年前にできた第5工場の焼却炉は400トンで、廃止した第3工場の600トンの焼却炉から200トンも減らせたのです。1トン当たり1億円ともいわれる焼却炉の建設で200億円もの建設費を削減できたことになり、これは行政の人たちの努力と市民との協働による成果であるといえるでしょう。私は「行政の隠れたファインプレー」と言っているのですが、ごみの減量によって200億円も建設費が削減できたことを知っている市民は少ないのです。皆さんは、ご存知でしたか。また、なんと第5工場で焼却した熱によって発電がなされており、発電効率が26.3%という日本一の記録で、施設組合で使う電気のほか売電もしており、その金額が年間9億円（東大阪市は7億円）にもなり、これは誇るべきことです。売電したお金は今はそれぞれの市の償還金に使われていますが、これを太陽光パネル設置の補助金として活用したり、バイオマス発電の拡大のために使うことにより、環境行政の更なる発展があるのではないのでしょうか。これは議会の中で訴えてまいります。（49号に続く）

